いろんな場所で
さがしてみよう

ダンゴムシの仲間たち

さわるとすぐに丸くなるダンゴムシ。花壇や植木鉢の下など、身近なところで見つかる人気者ですね。ムシといっても、実はエビやカニと同じ「甲殻類」。その中でも、陸上の生活に適応した仲間です。落ち葉などを食べる「そうじやさん」として、自然の中で大切な役割をはたしています。

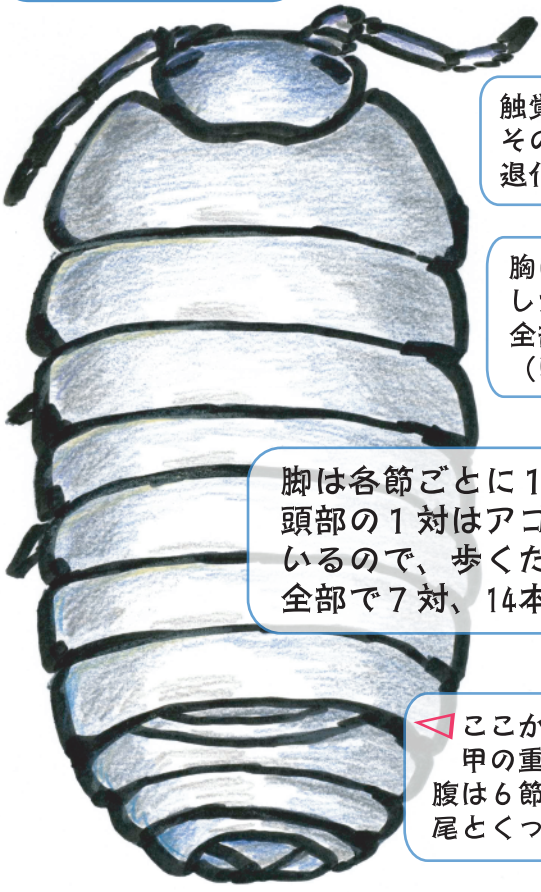
まず、「ダンゴムシ」と「ワラジムシ」を見分けよう!
さわると丸くなる　→　ダンゴムシ(以下に紹介)
丸くならない　→　ワラジムシ(裏面へ)

移入種

オカダンゴムシ　体長14ミリ位

学名:Armadillidium vulgare

身近なところで見つかる代表的なダンゴムシです。「Armado」は「武装した」という意味だそうですから、哺乳類のアルマジロと同じように、よろいを着たような姿から付けられた学名のようです。
明治時代に日本へ入ってきたと考えられている移入種です。
日本在来のダンゴムシの仲間は、森林などの湿った場所でくらしていますが、オカダンゴムシは乾いた環境に強いため、市街地などの乾燥した環境をすみかとして、世界各地に広がっています。



1対の複眼を持つ。

触覚は2対あるが、そのうち1対は退化して見えない。

胸は、頭と融合した部分を含め、全部で8節ある。（甲が8枚）

脚は各節ごとに1対あるが、頭部の1対はアゴにかわっているので、歩くための脚は全部で7対、14本。

ここから後がお腹で、甲の重なりが変わる。腹は6節で、最後節は尾とくっついている。

腹と尾がくっついた「腹尾節」
オカダンゴムシは、逆三角マーク。

海にくらすダンゴムシの仲間



全長10センチ弱。淡いピンク色で、海中ではエビのようにすばやく泳ぎます。

東海大学
海洋科学博物館で撮影

水深100m以上の深海にすんでいる、「オオグソクムシ」です。よろい（具足）を連想させる姿からついた名前です。
危険を感じると、ダンゴムシと同じように丸くなりますが、こちらは海の中で、エビなどと同じように、えらで呼吸しています。

また、海岸にすむ「フナムシ」や、山林などにくらす「ヒメフナムシ」なども、ダンゴムシの親せきに当たります。

おまけ

ハマダンゴムシ　体長20ミリ位

学名:Tylos granuliferus

海岸の砂浜などで、打ち上げられた海藻などに集まっています。やや大型になり、尾の部分は、背中側からは見えません。



在来種

コシビロダンゴムシの仲間　体長7〜8ミリ

日本の在来種。腹尾節は中央がくびれた「つづみ型」をしています。湿り気の多い森林などの環境を好むので、乾きがちな市街地ではほとんど見られなくなっています。
国内各地に、少しずつ特徴の違う固有種がみられます。



コシビロダンゴムシを見つけられたら、その場所に、昔からの森林環境がよく保たれていることの証拠です。
コシビロダンゴムシたちのくらしやすい環境を、できるだけ守ってあげたいですね。

ダンゴムシに似ているけれど…

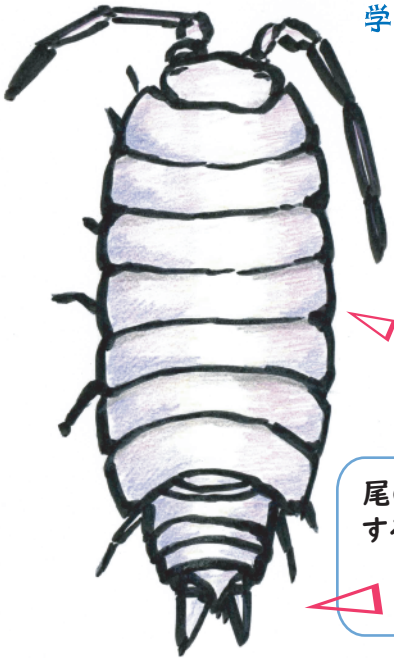
さわっても丸くならない。ダンゴムシより逃げ足が速い。

⇒ それらは「ワラジムシ」の仲間です。ダンゴムシと同じ、陸に上がった甲殻類で、節の数など、からだの構造はほとんどダンゴムシと変わりません。腹部にある呼吸器「白体」の数や、体表の色、形などから種類を見分けてみましょう。

移入種

ホソワラジムシ 体長13ミリ程

学名:Porcellionides pruinosus



白体（呼吸器/下の説明を参照）は2対。赤っぽい紫の体に、白い粉をかぶったような色合いです。ヨーロッパ原産とみられる移入種で、今では本州中部以南の国内各地に広がっています。

「ワラジムシ」にくらべて、節ごとの甲のふちが丸っぽく、全体にスリムな体型をしています。

尾の形は、ダンゴムシと区別するときのポイントになります。尾の先がとがっていれば、ワラジムシの仲間です。

移入種

ワラジムシ 体長10ミリ程

学名:Porcellio scaber



白体は2対あります。やはりヨーロッパ原産の移入種で、東日本などに広く分布しています。
甲の表面に、粒状の突起がたくさんあり、つや消し色に見えます。

体節の甲のふちは、やや後方にわん曲して、バチのように見えます。

移入種

クマワラジムシ 体長20ミリ程

学名:Porcellio laevis

黒っぽくてツルツルした甲を持つ、大型のワラジムシです。一見するとオカダンゴムシそっくりですが、さわっても丸くはなりません。

地中海地方原産の移入種で、やはり白体は2対。都市部の環境に適応して、大阪など、関西で分布を広げています。
オカダンゴムシ同様、将来は全国に広がっていくかもしれません。静岡でも、見つかるかな？

ダンゴムシ、ワラジムシの呼吸は？



これは2対の例

陸上での生活に適応するため、この仲間は、おなかの下側に呼吸器を発達させています。白く見えるため、これを「白体（はくたい）」と呼びます。

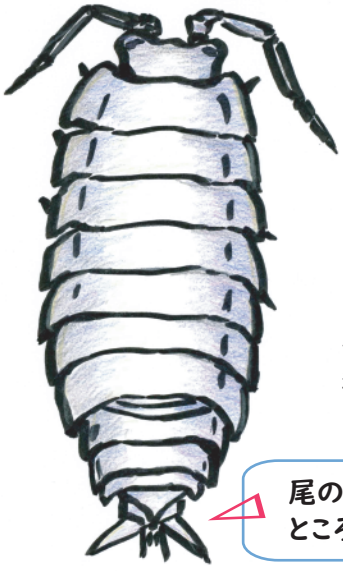
← **おなかを下側から見たところ。節ごとに白く対になっているのが白体です。**

水中でくらすエビ・カニたちの「えら」の代わりに、この白体でガス交換（呼吸）をしています。

在来種

トウヨウワラジムシ の仲間

体長10ミリ位まで



日本在来のワラジムシの仲間です。白体はやや未発達で5対にわかれ、ここで移入種と見分けられます。
この仲間も乾燥が苦手で、都市部からは姿を消しつつあるようです。

やはり、地域によって少しずつ特徴の違う固有種が見つかっています。それぞれの環境で、あまり長距離を移動せずに長い年月を過ごしてきたことの表れでしょう。

尾の先が「ハ」の字に広がって見えるところが、この仲間の特徴です。

ダンゴムシ・ワラジムシから地域の環境を知る

ダンゴムシやワラジムシなど、ふだんあまり注目されない足元の生き物たちの世界にも、私たちの活動による環境変化の影響や、在来種と移入種の分布の変化などが見られます。

どんなところに、どんな種類がくらしているか、探して見分けてみることで、身近な自然環境の「いま」を確かめてみませんか。

＜参考文献・資料をいただいた機関＞
「日本産土壌動物」 青木淳一編著／東海大学出版会
「改訂 校庭のクモ・ダニ・アブラムシ」
浅間茂・石井規雄・松本嘉幸共著／全国農村教育協会
「野外の毒虫と不快な虫」 梅谷献二編／全国農村教育協会

大阪市立自然史博物館、千葉県立中央博物館、
東海大学社会教育センター

資料制作 NPO法人富士の国・学校ビオトープ
独立行政法人環境再生保全機構 平成16年度「地球環境基金」助成事業
（原資料を一部改定して転載）

公益財団法人
静岡市文化振興財団
Shizuoka City Cultural Promotion Foundation